

TX開通に伴って研究学園駅周辺の移り変わり

茗溪学園中学校 2年 池本純

動機

父が30年以上前からつくばに住んでおり、「昔の研究学園は何もなく空地と森林ばかりで、今のように発展していき利便性の高い地域になったのはTXが開通してから」と聞いた。商業施設の多い、活気ある研究学園しか知らなかったため、どのような過程を経てこの地域が移り変わったのかについて詳しく知りたいと思いこの調査を行うことにした。

目的

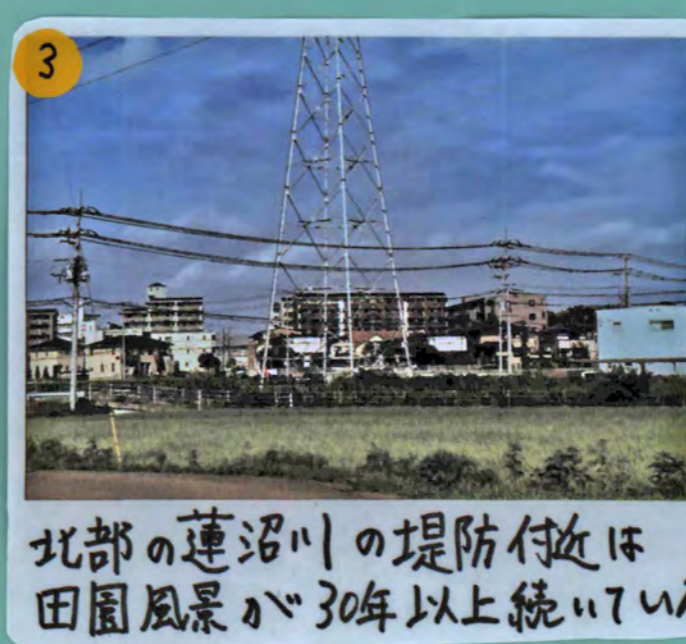
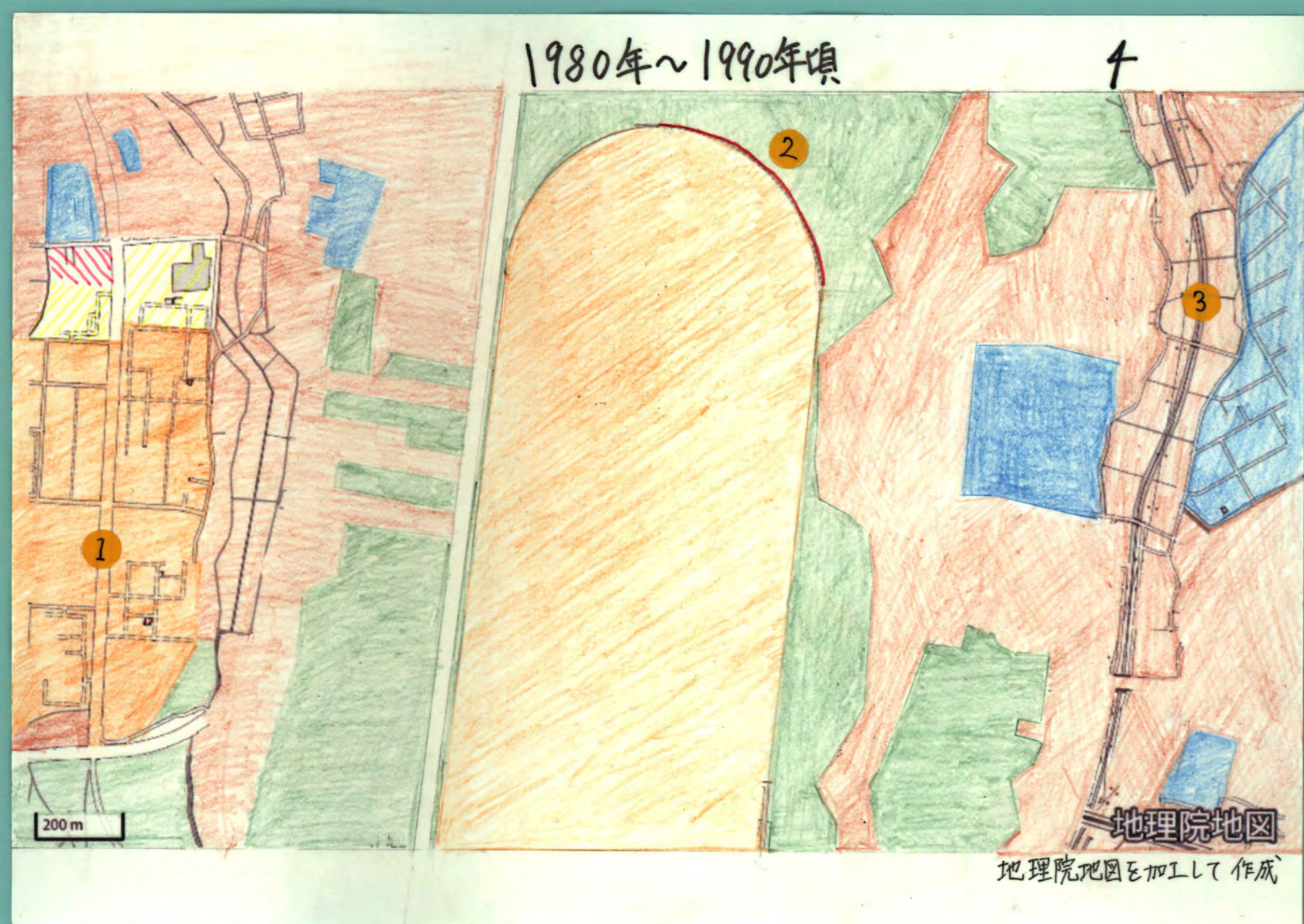
TXが開通する前、開通した直後現在の3つの地図から土地の使いかたの分布を示し、どのような過程を経て現在まで研究学園駅周辺が移り変わってきたのか明らかにする。

調査方法

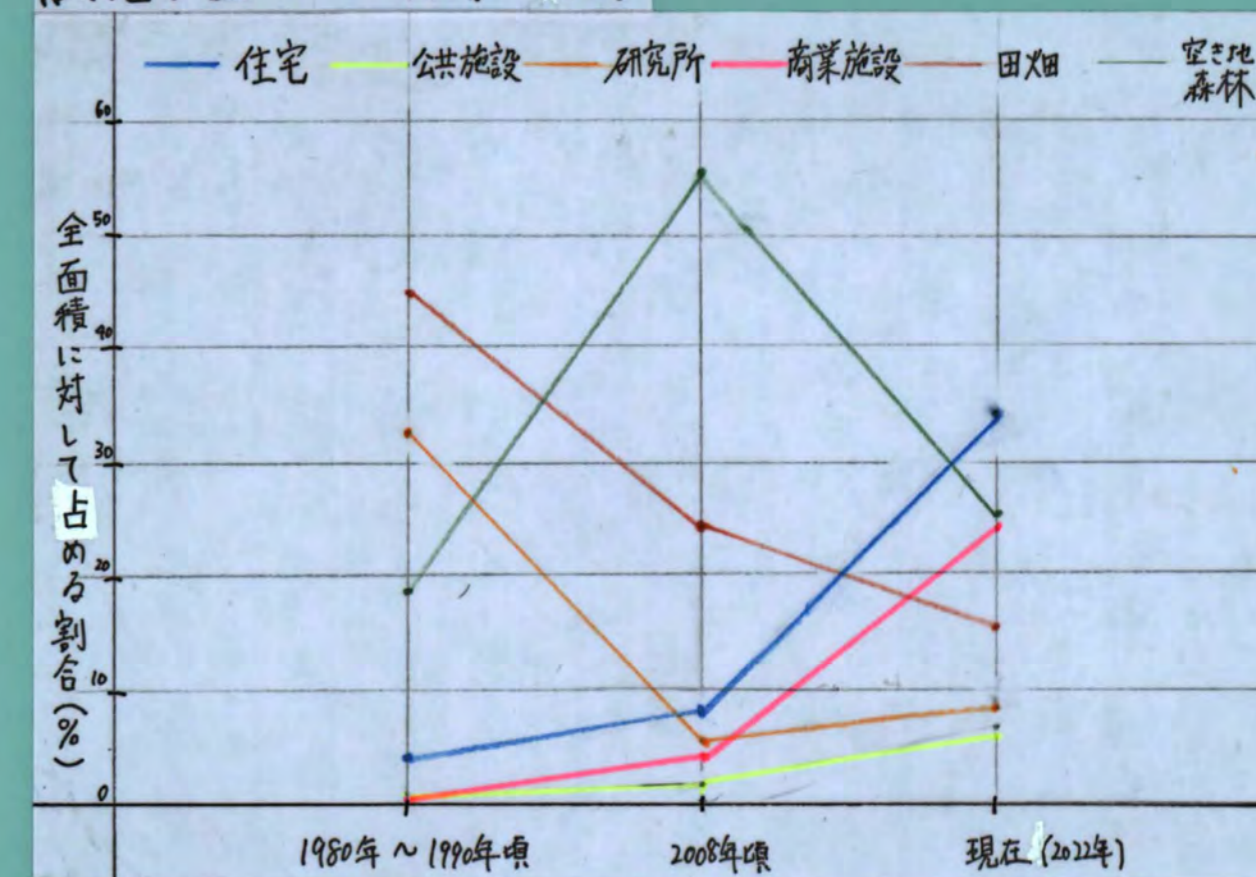
国土地理院の白地図を利用して、航空写真や地図をもとにどのように利用されているか調べ、現地での写真は16年ほど前に父が撮っていたものと、同じ場所での現在の様子を撮影し比較した。

調査結果

- 商業施設
- 公共施設
- 住宅
- 田畑
- 森林・空地
- 研究所・工場



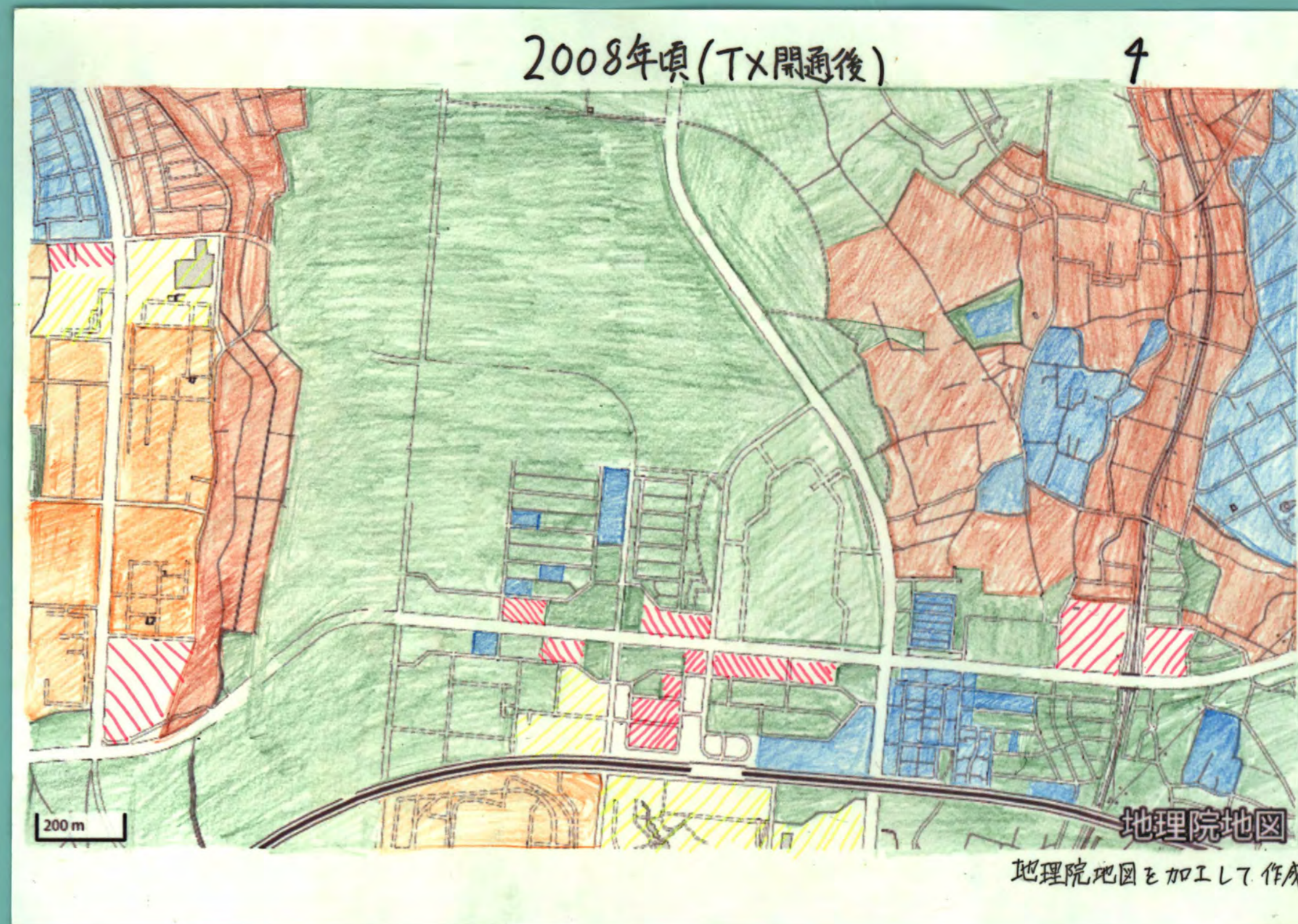
研究学園の土地利用の推移



住宅建設の準備のために開拓した土地を空地としたため2008年の空地・森林のデータが増加していることを除き、TXが開通した2008年頃から急激に、住宅・商業施設・公共施設が増加し、田畑・空地・森林が減少している。

東京の過密緩和のために、研究所などを初転移「研究学園都市」としての工事が行われた後であり、研究所はある。しかし住宅は少なく、商業施設も少ない。

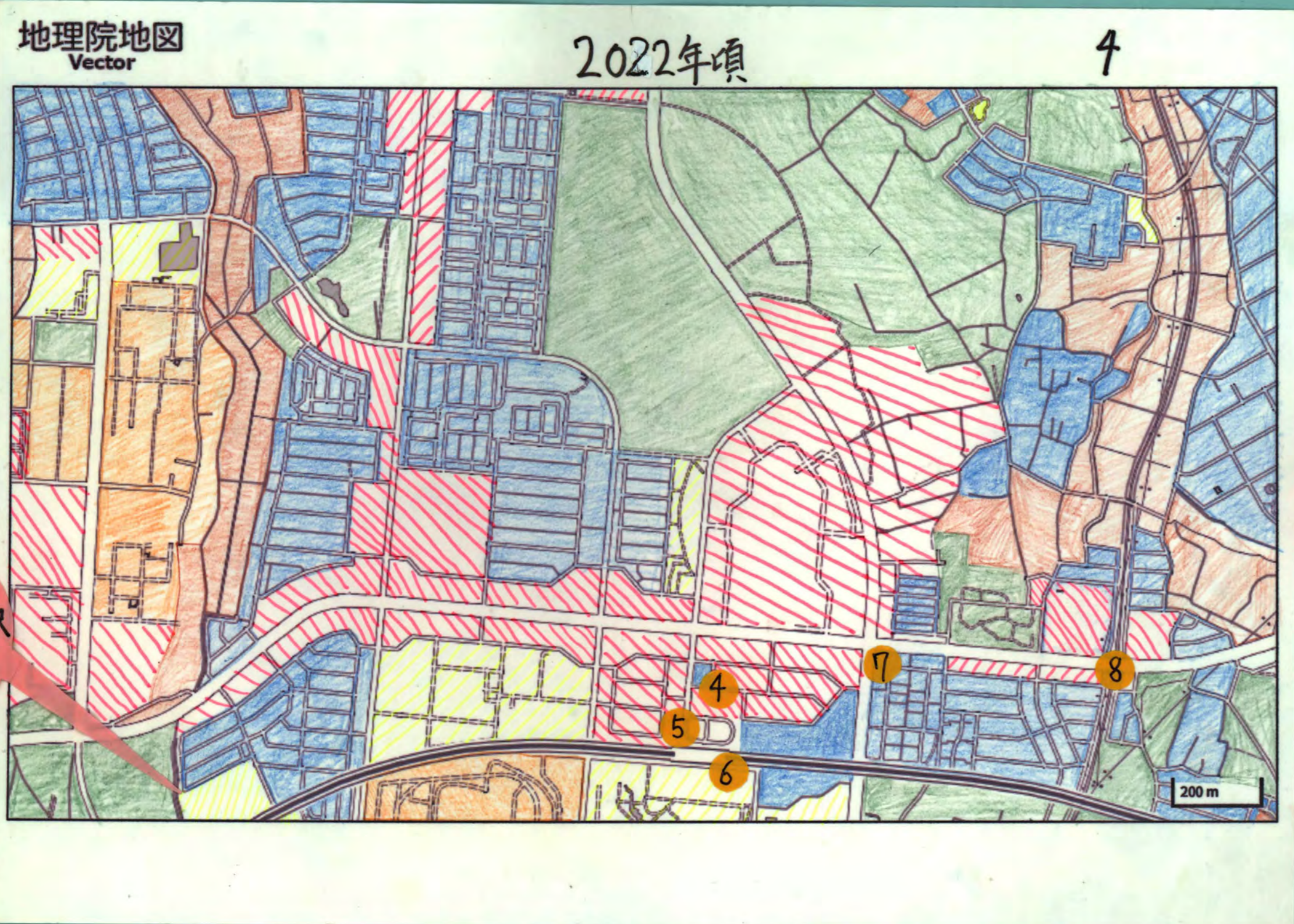
16年前に父が撮影した写真と、同じ場所で撮影した現在の写真



TXが開通し、都内や他県への通勤通学がしやすくなるなど利便性が向上したため、急激に住宅が増え始めた。



商業施設は大通りに沿ってつらわれており、交通量が多いため非常に多い。



住宅が急増したため、商業施設や公共機関が劇的に増加し、田畑や森林の面積が減少した。

住宅の増加により子供の人口も増加し、新しい学校が建設中。

考察

研究学園駅周辺は、場所や状態から「研究学園都市」の工事が行われた。その出来事から、かつては森林が開拓され研究所の建設が行われたことが1980年～1990年の地図データより分かった。これに伴いつくば一帯の人口が増え、そこにTXの駅ができたためさらに研究学園駅周辺の人口が増加した。これにより消費者の需要が拡大し、2022年の地図データのように盛んに商業施設や公共施設が作られ、活気ある街になったと考えた。

まとめ・感想

様々な過程を経て研究学園が移り変わってきたことに感動した。また、上記の写真以外にも父が16年前に撮影した写真には工事中の写真が多くあった。このような工事に携わった人々の努力もあってこの地域が形成されたことを実感し、研究学園に住む一員としてこの地域をもっと活気づけたいと思った。未来は、この地域で難病のため車椅子生活を送る祖父の視点で研究学園のバリアフリー化の取り組みについて地図を用いて調べてみようと思う。

参考文献

- 国土地理院地図 Vector (一部加工して使用) maps.gsi.go.jp/vector/#14/36.081034/140.07899/815 vblnk&dlp=1&d=1 2022-08-14確認
- Google マップ google.co.jp/maps 2022-08-14確認
- おれが50年、こゝが50年「筑波研究学園都市50周年記念式典」 tsukuba-style.jp/blog/2013/11/4401.html#:~:text=%E6%96%B6%E5%B8%B6%E5%B8%B6%E5%B8%B6 2022-08-15確認